

2004年1月1日～2016年12月31日の間に 当科において内視鏡下に生検を施行し胃腺腫と診断された方 およ びご家族の方へ

—「胃腺腫の発癌に対する後ろ向き研究」へご協力のお願い—

研究機関名	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 岡山大学病院		
研究機関長	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 岡山大学病院	研究科長	那須 保友 病院長 金澤 右
研究責任者	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 病態機構学講座 消化器・肝臓内科学分野 教授 岡田 裕之		
研究分担者	岡山大学病院 光学医療診療部	准教授	河原 祥朗
	岡山大学病院 消化器内科	助教	川野 誠司
	岡山大学病院 消化器内科	助教	岩室 雅也
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 病態機構学講座 消化器・肝臓内科学分野 助教 神崎 洋光		
	岡山大学病院 消化器内科	医員	後藤田 達洋
	岡山大学病院 消化器内科	医員	安部 真
	岡山大学病院 消化器内科	医員	榮 浩行
	岡山大学病院 消化器内科	医員	馬場 雄己
	岡山大学病院 消化器内科	医員	濱田 健太
	岡山大学病院 消化器内科	医員	大林 由佳
	岡山大学病院 消化器内科	医員	岡本 雄貴

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

胃腺腫は経過を見ていく過程において、発癌し治療が必要となる病変、発癌せずに腺腫のまま経過する病変があると報告されています。一方で腺腫の発癌リスクとなるものはどのようなものであるか、発癌の頻度はどの程度であるか、患者さんの背景因子としてどのようなものがあるかに関しては明らかにされていない点も多いのが現状です。

本研究では当院にて内視鏡下に生検を施行し胃腺腫と診断された方を対象とし、胃腺腫の発癌リスクとその頻度、胃腺腫と背景因子、発癌との関係について後ろ向きに検討することを目的とします。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

研究成果により、胃腺腫の発癌リスク、頻度、背景因子を検討することで今後の胃腺腫治療の道標となることが期待されます。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2004年1月1日～2016年12月31日の間に岡山大学病院消化器内科において内視鏡下に生検を施行し胃腺腫と診断された方を対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認後～2020年3月31日

3) 研究方法

2004年1月から2016年12月に当科にて胃腺腫と診断された375症例406病変について後ろ向きに検討を行い、胃癌の発生率、癌化群における臨床病理学的特徴、胃腺腫の臨床的対応に関して考察を行います。

4) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- 年齢、性別、併存疾患、既往歴、血液検査結果
- 診察所見、腫瘍の状態、治療内容、病理組織診断結果などの検査データ

5) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院消化器内科医局内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2019年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 消化器内科

氏名：岡本 雄貴

電話：086-235-7219（平日：9時00分～17時00分）